



金子 和義  
(自民党)

**災害時の消防  
万全の備えを**

**問** 近い将来、首都直下型地震など、大規模地震の発生が危惧されている。消防は、市民の生命、身体、財産を守る最前線として、あらゆる事態を想定し、業務を継続するため、準備をしておかなければならない。災害時において、いち早く対応するためには、市民からの119番通報を確実に受け付ける体制の確保が重要となるが、その取り組みは。

**答** 28年4月に導入した消防緊急通信指令システムは、庁舎の耐震化や予備電源の確保に加え、119番通報の受け付けなど重要な部分は、常時、予備のシステムを稼働させており、障害発生時には瞬時に切り替えるなど高い信頼性を備えている。

また、万一、地震被害などで、システムが損壊した場合や、電話回線に障害が発生し通信指令室で119番通報の受け付けができなくなった場合に備え、市内3か所の消防署を代替拠点とし、通報の受け付けを維持する計画を策定し、訓練を行うなど万全の体制を確保している。



金子 武蔵  
(自民クラブ)

**竹島、尖閣諸島  
などの教育充実を**

**問** 文部科学省が29年2月に公表した次期学習指導要領の改訂案において、小中学校の社会で、竹島と尖閣諸島が、固有の領土として明記された。今まで学校教育では、竹島や尖閣諸島、北方領土など、領土領海についての教育が不十分だったと思う。今後の、国土への意識向上のための教育について聞く。



▲通信指令室

**その他の質問項目**

①市長の政治姿勢(28年度中期財政計画と29年度当初予算案、ネットワーク型コンパクトシティと立地適正化計画など、LRT事業、新地方公会計制度、官民データ活用推進、グローバル化に対応した英語教育)②今後のスポーツ施設のあり方③上下水道事業

**答** 26年の国の通知により、中学校では、北方領土に加え、竹島と尖閣諸島が我が国固有の領土であることを取り扱うようになり、この通知に基づき、授業が行われている。

現在、改訂が進められている学習指導要領においては、小学校で、北方領土、竹島、尖閣諸島が我が国固有の領土であること、中学校では、それに加えて島々の歴史的経緯、尖閣諸島については領土問題が存在しないこと、北方領土や竹島については、我が国が平和的な手段による解決に向けて努力していることなどについて学習するよう求められており、これまでに、児童生徒が広く深く理解できるよう指導することになる。



**その他の質問項目**

①子どもの家等事業②北西部地域(体育施設による地域活性化、静校)③観光地大谷④東南アジアの観光客誘致⑤消防団員の確保⑥自衛隊への理解促進⑦人工知能、IoT、ビッグデータ、ロボットの活用と対応⑧介護ロボット、アダプティブラーニング



篠崎 圭一  
(自民党)

**効果的な投資で  
発展する未来へ**

**問** 市では、職員数の削減や市債残高の減少などに取り組み、各部門で予算を削減し、改革を進めてきたが、それをいかに生かすかが重要である。市の未来がより良くなるよう、公共交通網の整備、企業誘致、ブランド力の向上などに投資することで、人口減少を食い止めるとともに、子どもの教育を積極的に行うことで、未来の本市経済を支えていく人材を育成することが、市の持続的発展の循環につながると思われるがどうか。

**答** 人口減少社会の中でも持続的に発展するためには、未来を見通したまちづくりを行っていか

なければならないと考えている。

このため、まちづくりのあらゆる分野で原動力になる人づくりに重点的・継続的に取り組む。

また、雇用を創出し所得を生み出すことで消費が拡大し、新たな生産につながる地域経済の好循環のための取り組みや、人や経済の活動を支える骨格の強い都市基盤の構築など、未来都市うつのみやを実現するための取り組みに優先化・重点化を図り、今を生きる市民と将来を担う子どもたちのために、未来へつながる投資を行っていく。



**その他の質問項目**

①空き家対策②福祉行政地域包括ケアシステム、骨髄移植ドナーへの支援③JRR雀宮駅周辺の整備④ネットワーク型コンパクトシティにおける市街化調整区域内の集落の考え方⑤文化行政(宇都宮城の復元ほか)⑥主体的に考える力を持った人材の育成